山梨県韮崎市

宮ノ前第4遺跡

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995

韮崎市遺跡調査会
韮崎市教育委員会

山梨県韮崎市

宮ノ前第4遺跡

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995

韮崎市遺跡調査会
韮崎市教育委員会

序　文

韮崎市ではこれまでに県営圃場整備等の公共事業に係り多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されており、近年では公共事業ばかりでなく民間の開発にともなう調査も増加しつつあります。この度発刊された本報告書は、このように埋蔵文化財発掘調査件数の増加するなか、民間の店舗建設にともなって平成６年度に発掘調査された、宮ノ前第４遺跡の報告であります。

市立北東小学校建設にともない平成元年～２年に実施された宮ノ前遺跡の調査では奈良・平安時代を中心として400軒あまりの住居跡が発見されていますが、宮ノ前遺跡の東側に位置する宮ノ前第４遺跡からは住居等の遺構は確認されませんでした。しかし弥生時代や奈良・平安時代の土器・須恵器・土師器が出土しており、当該地域には我々の祖先の活動がおよんでいることは確実となりました。遺構や遺物の詳細は報告文に譲りますが、本遺跡から発見されたものは当時の生活や文化を知る上で貴重です。これらの資料を文化財として永く後世に伝えて行きたいと思います。本報告書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

最後に、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成７年３月31日

韮崎市遺跡調査会　　韮崎市教育委員会

会　長　**秋　山　幸　一**　　教育長　**秋　山　利　良**

例　言

1　本書は、山梨県韮崎市藤井町駒井字宮ノ前2653・2656・2657－1番地に所在した宮ノ前第４遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、保阪宏悟氏所有地への店舗建設に係り行われた。

3　遺跡の名称は、平成元年～２年に実施された宮ノ前遺跡発掘調査から数えて、字宮ノ前地域における４回目の調査であることから「宮ノ前第４」を遺跡名とした。

4　発掘調査は、保阪宏悟氏から委託を受け韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。

5　整理作業及び報告書作成にかかわる業務は韮崎市遺跡調査会が実施した。

6　凡例

① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。　② 縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土をあらわす。　③ 遺構断面図の水糸標高(m)は数字で示した。　④ 挿図中の穴等の数字は床面及び確認面からの深さを表わす。　⑤ 挿図断面図の(////)は石をあらわす。　⑥ 歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。　⑦ 写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。

7　発掘調査及び報告書作成に当たっては、多くの方々から御指導・御協力・御鞭撻をいただいた。一々御芳名を上げることは避けるが厚く御礼を申し上げる次第である。

8　発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調 査 組 織

1　調査主体　　韮崎市遺跡調査会

2　調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加者

伊藤正彦・岡本嘉一・小田切絹江・小沢高恵・小沢三千子・小沢千代子・小沢治代・小沢久江・小田切昭子・長島昌子・乙黒きくゑ・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・青山みち枝

4　事務局　（韮崎市教育委員会社会教育課）

教育長　秋山利良、課長　福田国夫、課長補佐　深沢義文、係長　中嶋尚夫、野口文香

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿 図 目 次
写真図版目次

Ⅰ　発掘調査の経緯と概要 ---------- 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 ---------- 1
Ⅲ　遺跡の地相概観 ---------- 2
Ⅳ　遺構 ---------- 4
Ⅴ　遺物 ---------- 4
Ⅵ　まとめ ---------- 10

挿 図 目 次

第１図　宮ノ前第４遺跡①と周辺遺跡位置図 ---------- 2
第２図　宮ノ前第４遺跡全体図 ---------- 3
第３図　溝状遺構平・断面図 ---------- 5
第４図　南側区画平・断面図 ---------- 6
第５図　溝状遺構出土遺物 ---------- 8
第６図　遺構外出土遺物 ---------- 8
第７図　遺構外出土遺物 ---------- 9

写真図版目次

図版１　排土作業、北側区画発掘風景
図版２　北側区画、北側区画東辺土層
図版３　北側区画補助的試掘溝西端土層、溝状遺構
図版４　溝状遺構土層、南側区画発掘風景
図版５　南側区画補助的試掘溝土層、南側区画補助的試掘溝東端土層
図版６　南側区画、測量風景
図版７　溝状遺構出土遺物、遺構外出土遺物
図版８　遺構外出土遺物

Ⅰ　発掘調査の経緯と概要

1　発掘調査にいたる経緯

平成６年４月の韮崎市土地利用調整会議において稲垣デザイン事務所から、韮崎市藤井町駒井字宮ノ前2653・2656・2657－1番地の店舗建設に関して事業計画が出された。当該地域は宮ノ前遺跡の周辺であり遺跡の存在が予想されたため、本市教育委員会立ち会いで遺跡の有無確認を実施したところ土師器・須恵器破片が出土した。その結果、県教育委員会学術文化課の指導を受け本市教育委員会と会社側で協議を行い、遺跡名を宮ノ前第４遺跡、調査主体を韮崎市遺跡調査会として、造成工事に先立って建物建設予定地の約220m²を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

2　発掘調査の概要

発掘調査期間　平成６年５月16日～５月30日

調査は重機により基本的に遺物出土確認面まで排土を行い、地形等を考慮し測量の基準として、任意に５m間隔の方眼を設定し、鋤簾等を用い精査を行い遺構確認後掘り下げを行った。また随時補助的試掘溝を設定し、遺構の確認等を図った。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地

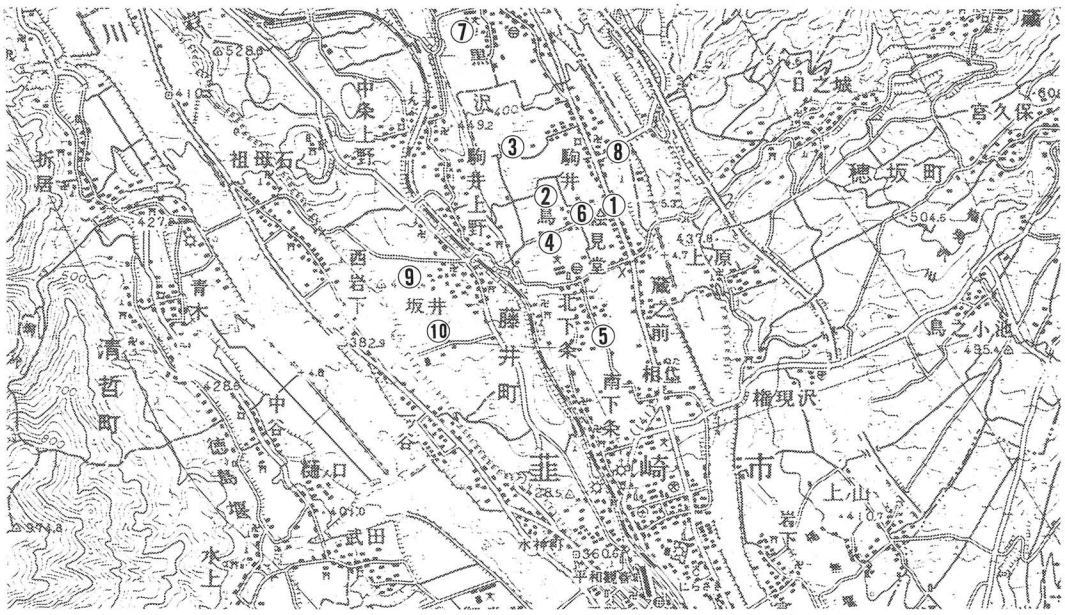
宮ノ前第４遺跡は、山梨県韮崎市藤井町駒井字宮ノ前地内に所在した。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

宮ノ前第４遺跡の所在した塩川右岸の氾濫原は、塩川の侵食によって造られた茅ヶ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高上に遺跡が点在しており、宮ノ前第４遺跡は標高約386mの水田下に発見された。

2　周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
①	宮ノ前第４	弥生・奈良・平安	
②	宮ノ前	縄文・弥生・奈良・平安	平成元年～平成２年 韮崎市遺跡調査会調査

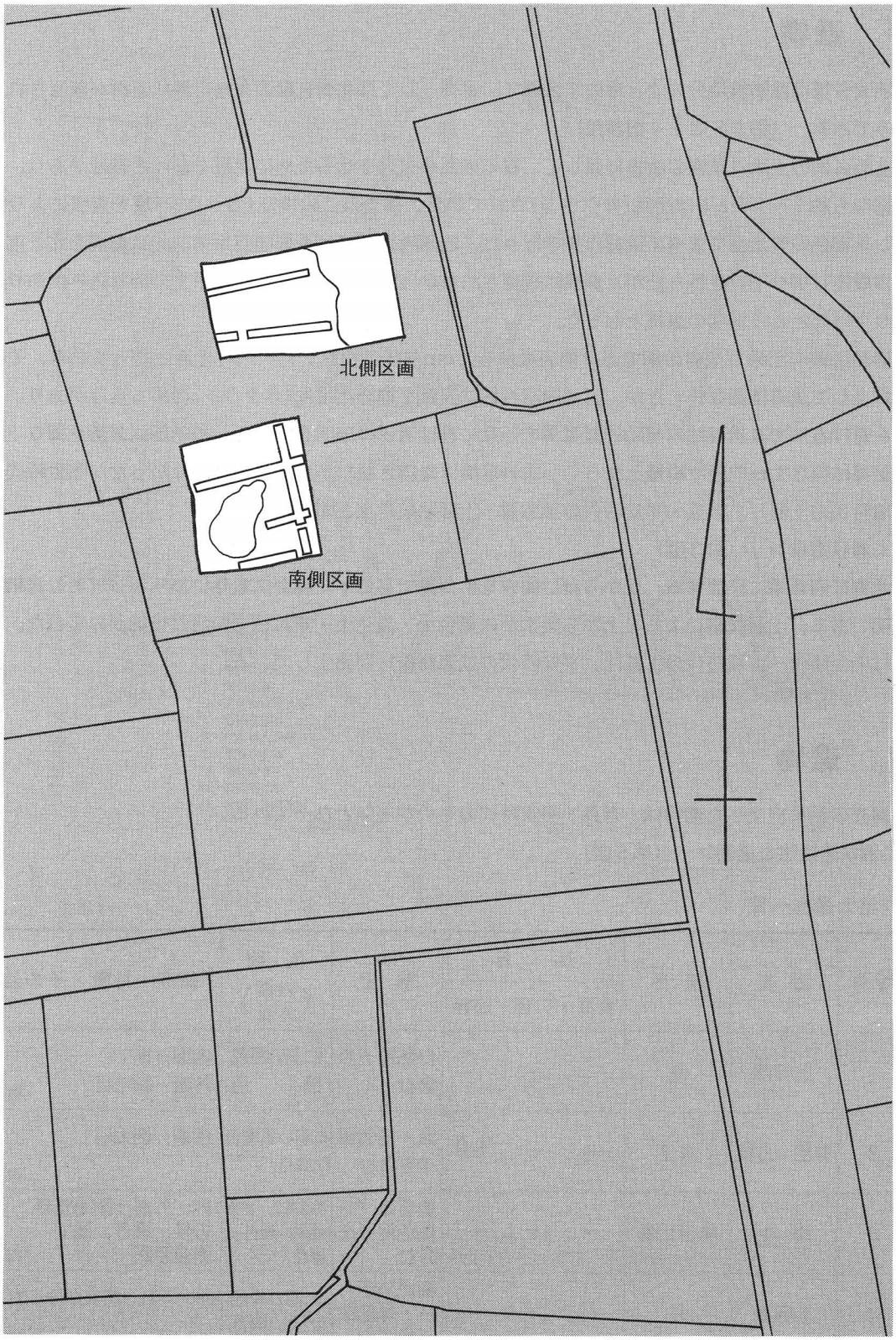


第１図　宮ノ前第４遺跡①と周辺遺跡位置図(1:50000)

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
③	宮ノ前第２	奈良・平安・中世	平成２年度韮崎市教育委員会調査
④	後田	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	昭和63年度韮崎市教育委員会調査
⑤	下横屋	弥生・平安	平成元年度韮崎市教育委員会調査
⑥	宮ノ前第３	奈良・平安	平成４年度韮崎市遺跡調査会調査
⑦	中田小学校	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度韮崎市教育委員会調査
⑧	駒　井		昭和60年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑨	坂　井	縄文前期～晩期	志村滝蔵『坂井』 地方書院 昭和40年
⑩	坂井南	古墳・平安	昭和57・58・60年度 韮崎市教育委員会調査 平成４年度 韮崎市遺跡調査会調査

Ⅲ　遺跡の地相概観

宮ノ前第４遺跡は、塩川右岸氾濫原の微高地上に立地する。位置的には鳥居集落の東方にあたり、宮ノ前遺跡(現市立北東小学校)から東へ400m程離れている。遺跡の周囲は国道と新興住宅地となっている。当該地域は以前は林檎の畑であった。



第２図　宮ノ前第４遺跡全体図(1/500)

Ⅳ　遺構

調査区域は建物敷地分の北と南の二区画で、遺構としては北側区画の東端に溝状遺構が確認されたのみである。（第２・３・４図参照）

北側区画の土地は果樹の改植に際して、根の成長を促進させるために発破をかけた経緯があり、地表面から約１～1.5m下は撹乱(カクラン)されていた。調査はこの撹乱(カクラン)層を重機により排土し茶褐色砂質土面で遺構の確認作業を行った。区画内西側には遺構確認用補助的試掘溝を北と南に二本設定し掘り下げを行ったが、遺構は確認されなかった。東側には暗褐色系土の落ち込みがあり、掘り下げたところ溝状の遺構となった。

南側区画の土地も果樹の畑であり地表面から70cm前後は撹乱(カクラン)土層となっており、それを排土して遺構確認を行ったが、区画内南西側は瓦礫を埋めた撹乱(カクラン)の落ち込みがあり、それを避ける形で遺構確認用補助的試掘溝を任意に設け遺構の確認を図った。補助的試掘溝を掘り下げた結果は深さ１m前後で礫層となってしまい遺構は確認されなかった。遺構はなかったが弥生時代～古墳時代の土器片、奈良・平安時代の須恵器・土師器破片などが出土した。

＜溝状遺構＞　（第３図）

北側区画東端に位置する。北から南に傾きをもつ溝であるが、調査区域外にひろがっており詳細は不明である。土層観察によると上から大まかに褐色土・黒色土・茶褐色土の自然堆積がみられた。遺物は弥生時代～古墳時代の土器片、平安時代の須恵器破片が出土している。

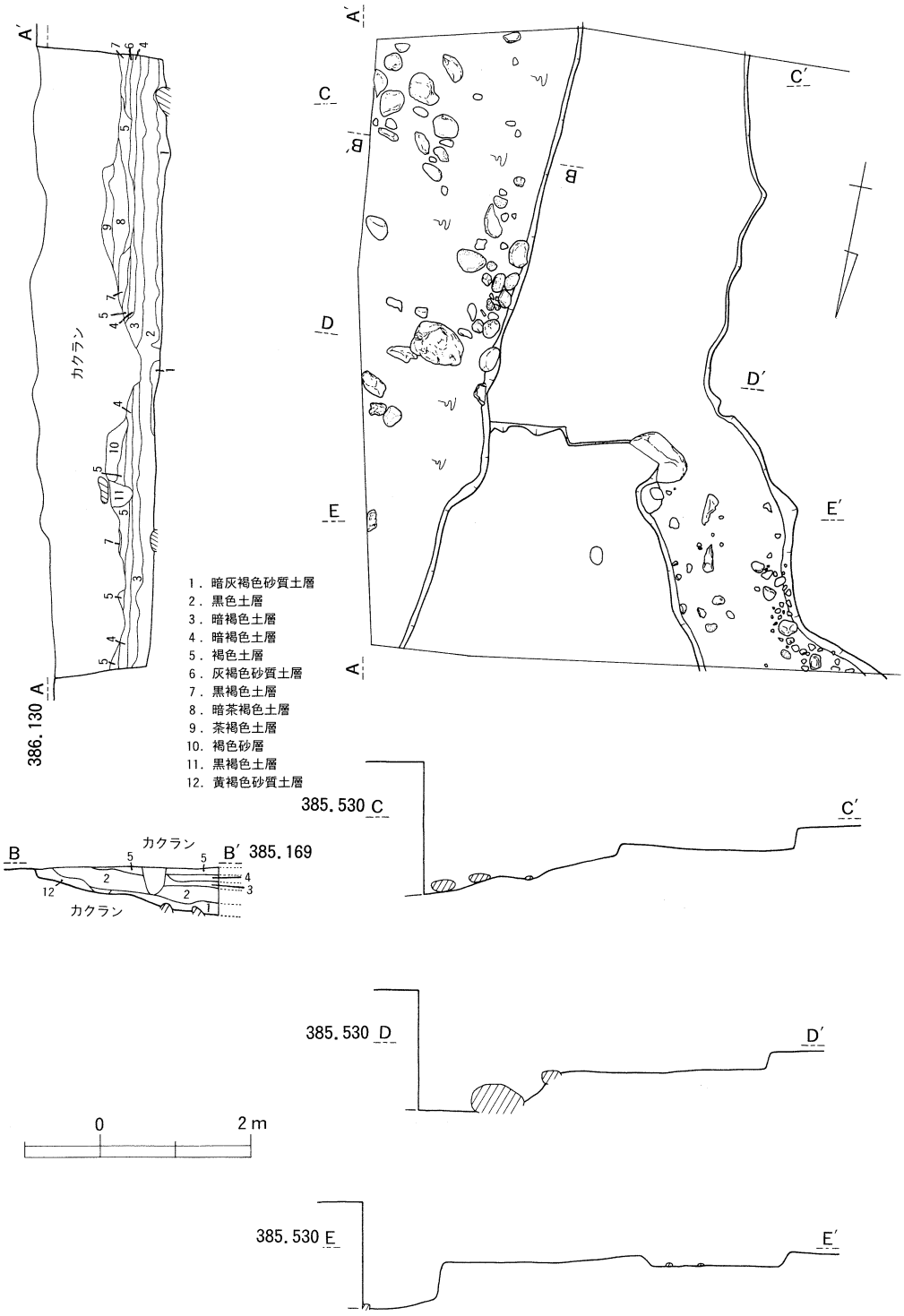
Ⅴ　遺物

調査の結果出土した遺物は、奈良・平安時代のものが主体となっている。

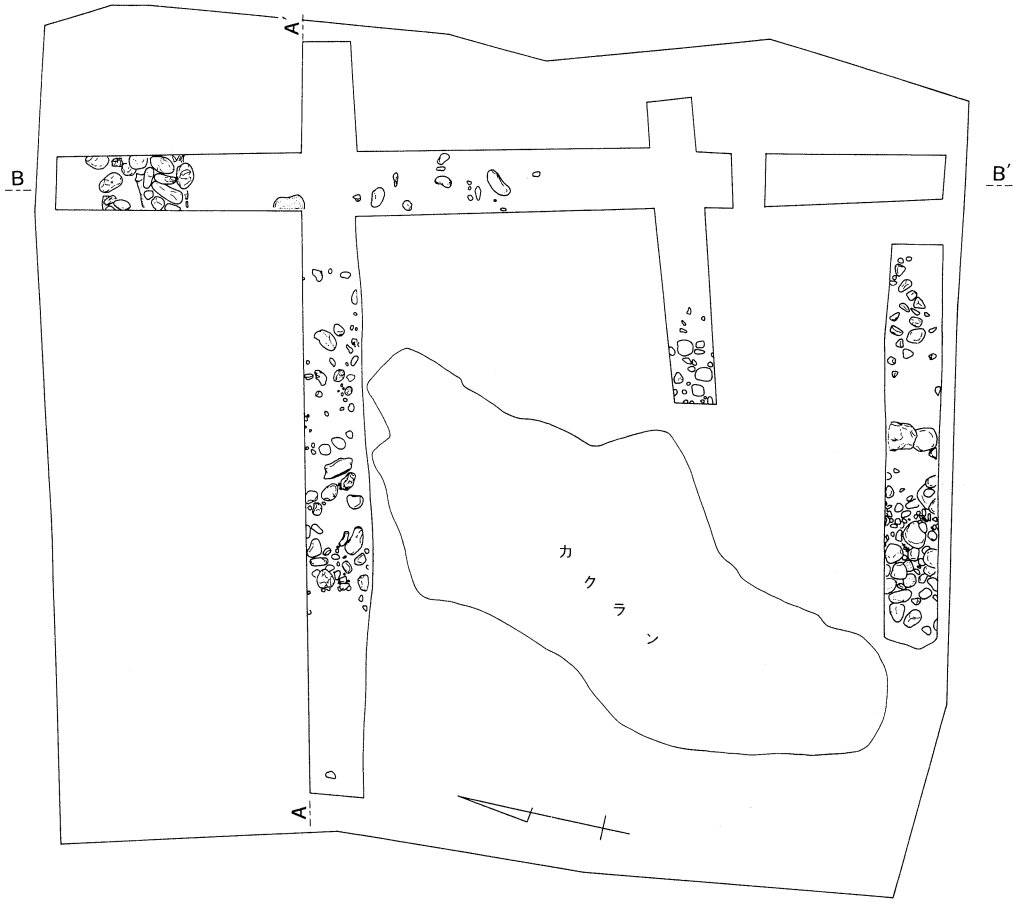
＜溝状遺構出土遺物＞　（第５図）

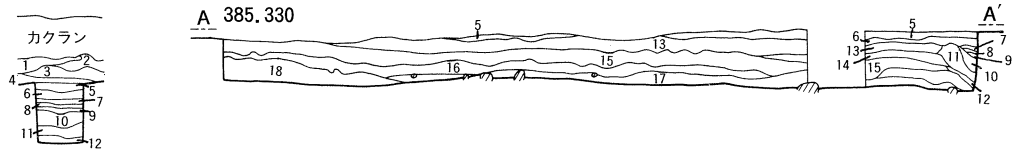
出土遺物一覧　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	―，―，―	白色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	内面－撫で 外面－刷毛目 破片
2	弥生～古墳	坩？	―，―，4.0	赤・白色粒子を含む	にぶい黄橙色 明褐色	内面－刷毛目 破片
3	弥生	埦形土器	―，10.3，―	金雲母、白・黒色粒子を含む	明赤褐色・赤色 にぶい橙色・赤色	内、外面－刷毛整形の後、磨き、撫で 赤色塗彩　1/5残
4	土師器	坏	―，11.8，―	細かい赤・白・黒色粒子を含む	にぶい褐色 にぶい橙色	内、外面－暗文がみられる 破片
5	須恵器	甕	―，―，―	白色粒子を含む	灰黄色	内面－叩き目 外面－撫で 破片

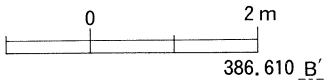


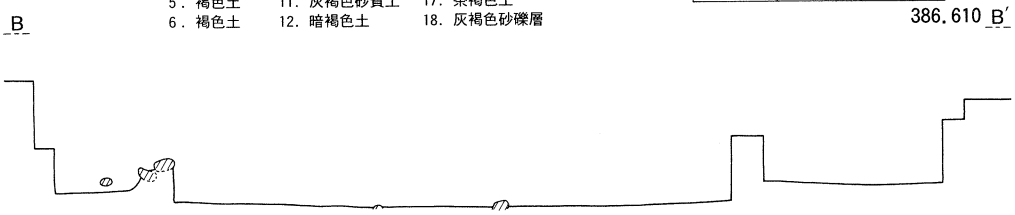
第３図　溝状遺構平・断面図(1/90)





1．灰褐色土
2．黒褐色土
3．暗褐色土
4．暗褐色土
5．褐色土
6．褐色土
7．黒色粘質土
8．灰色粘質土
9．灰黒色粘質土
10．灰褐色砂質土
11．灰褐色砂質土
12．暗褐色土
13．暗茶褐色土
14．褐色粘質土
15．黒褐色土
16．暗茶褐色土
17．茶褐色土
18．灰褐色砂礫層





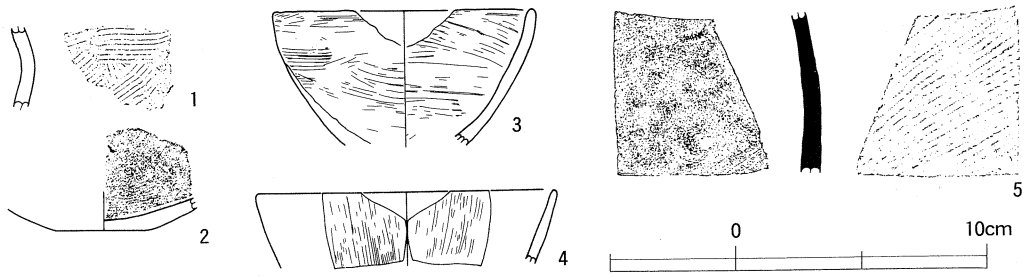
第４図　南側区画平・断面図(1/90)

〈遺構外出土遺物〉　（第６・７図）

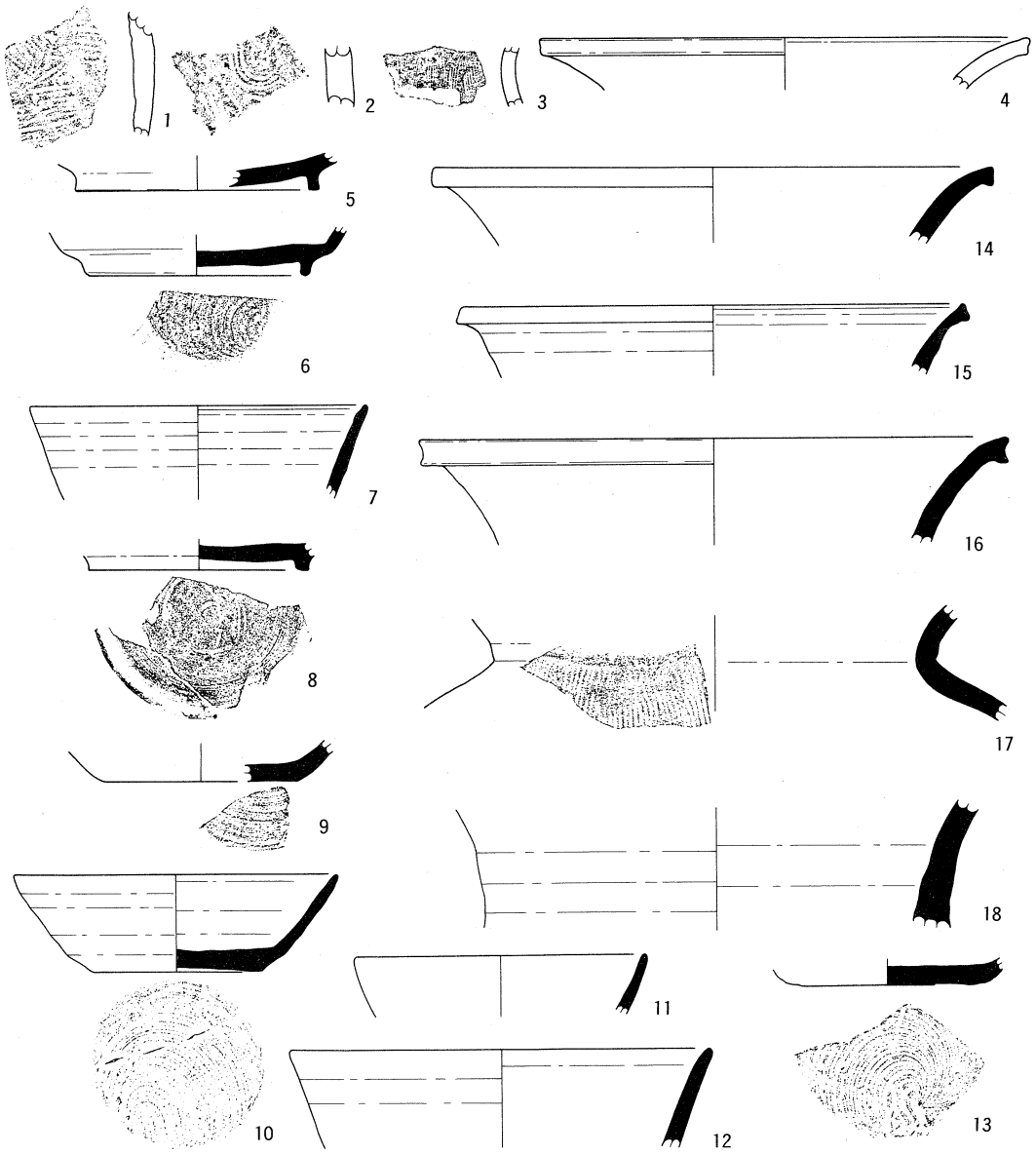
出土遺物一覧

（単位　cm）

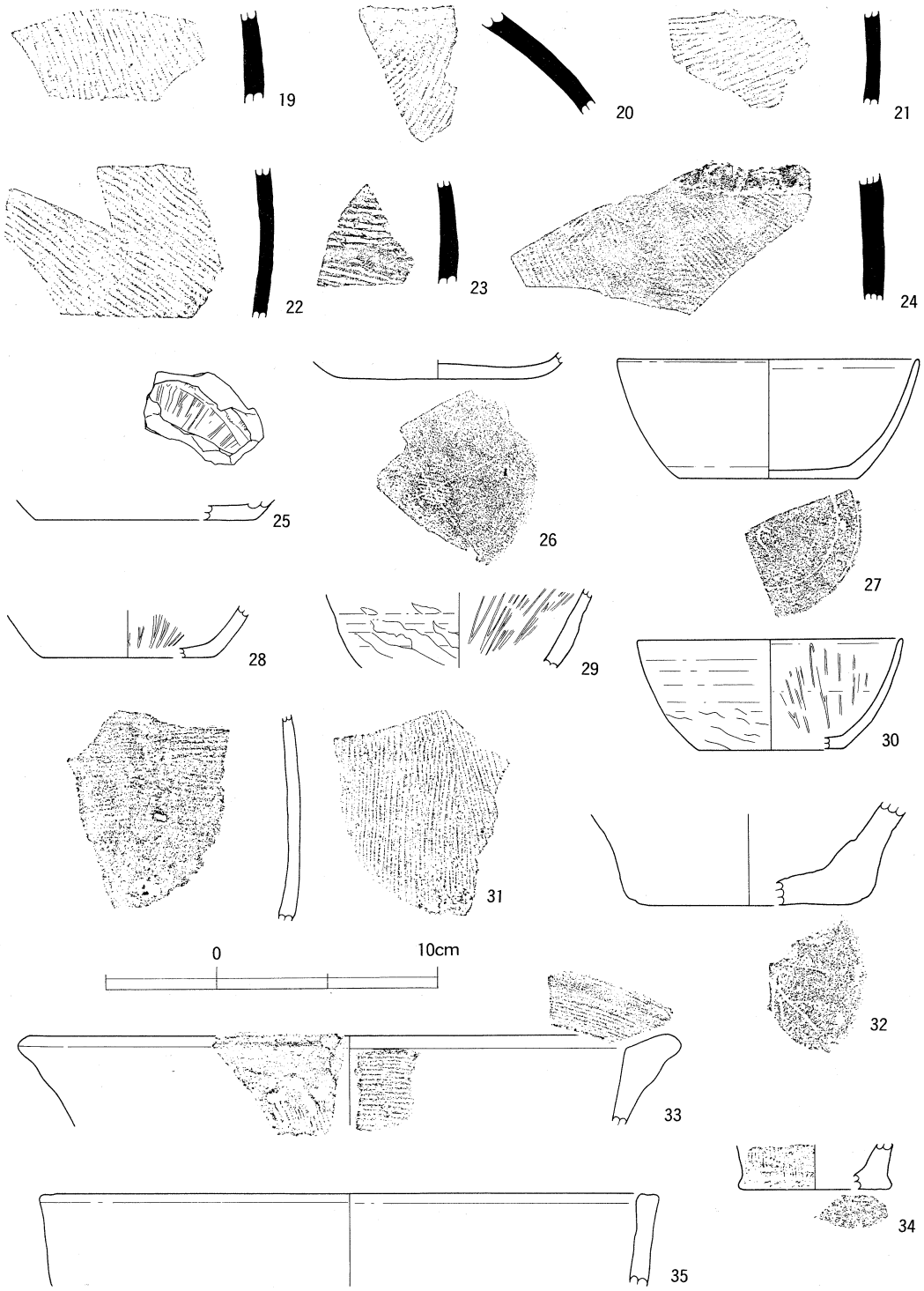
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	―，―，―	砂粒を含む	にぶい赤褐色 にぶい橙色	外面－叩き目 破片
2	弥生	壺	―，―，―	砂粒を含む	にぶい黄橙色 淡黄色	外面－櫛描きU字文 破片
3	弥生	甕	―，―，―	金雲母を少し含む	灰褐色 褐色	内面－撫で 外面－縦刷毛目　頸部破片
4	弥生～古墳	壺	―，20.0，―	砂粒を含む	にぶい黄橙色 橙色	撫で 口縁部破片
5	須恵器	坏	―，―，9.8	白・黒色粒子を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	外面－底部、付高台 底部破片
6	須恵器	坏	―，―，8.8	白色粒子を含む	灰黄色 灰オリーブ色	外面－回転糸切り後ヘラ削り付高台　底部破片
7	須恵器	坏	―，13.7，―	白・黒色粒子を含む	灰色	内外面－横撫で 破片
8	須恵器	坏	―，―，9.0	白・黒色粒子を含む	灰色 灰オリーブ色	外面－底部、付高台 底部破片
9	須恵器	坏	―，―，7.9	白・黒色粒子を含む	灰色 灰オリーブ色	外面－底部回転糸切り痕 底部破片
10	須恵器	坏	4.0，13.0，7.0	白色粒子を含む	灰白色 灰色	外面－底部回転糸切り痕 1/4残
11	須恵器	坏	―，11.7，―	細かい白色粒子を含む	にぶい黄橙色	内外面－ロクロ撫で 破片
12	須恵器	坏	―，17.1，―	白色粒子を含む	灰色	内外面－ロクロ撫で 高台付坏？　破片
13	須恵器	坏	―，―，8.0	白色粒子を含む	にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部回転糸切り痕 底部破片
14	須恵器	甕	―，22.8，―	白・黒色粒子を含む	灰色	口縁部横撫で 口縁部破片
15	須恵器	甕	―，20.4，―	白・黒色粒子を含む	灰色 暗灰色	口縁部横撫で 口縁部破片
16	須恵器	甕	―，24.0，―	白色粒子を含む	にぶい褐色 灰褐色	撫で 口縁部破片
17	須恵器	甕	―，―，―	白色粒子を含む	灰白色 褐灰色	外面－胴部に叩き目がみられる　頸部破片
18	須恵器	甕	―，―，―	白・黒色粒子を含む	褐灰色 灰赤色	内外面－横撫で 頸部破片
19	須恵器	甕	―，―，―	白色粒子を含む	灰オリーブ色	内面－撫で 外面－叩き目　破片
20	須恵器	甕	―，―，―	白色粒子を含む	オリーブ黄色 浅黄色	内面－撫で 外面－叩き目　破片



第５図　溝状遺構出土遺物(1/3)



第６図　遺構外出土遺物(1/3)



第７図　遺構外出土遺物(1/3)

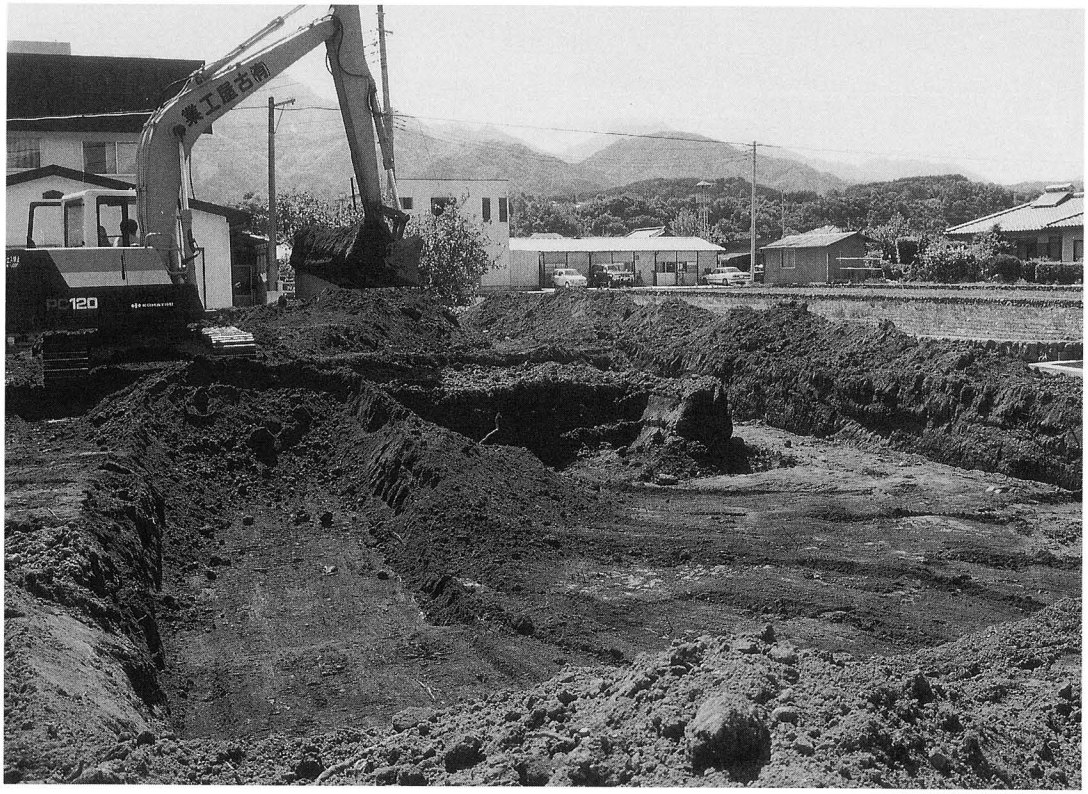
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
21	須恵器	甕	―, ―, ―	白色粒子を含む	灰色 浅黄色	内面－撫で 外面－叩き目 破片
22	須恵器	甕	―, ―, ―	白色粒子を含む	灰オリーブ色 オリーブ黄色	内面－撫で 外面－叩き目 破片
23	須恵器	甕	―, ―, ―	白色粒子を含む	にぶい黄色 明黄褐色	内面－撫で 外面－叩き目 破片
24	須恵器	甕	―, ―, ―	白色粒子を含む	灰白色 淡黄色	内面－撫で 外面－叩き目、割れ口に指頭痕がみられる 破片
25	土師器	坏	―, ―, 10.0	金雲母を含む	灰褐色 明赤褐色	内面－みこみ部に暗文がみられる 底部撫で 底部破片
26	土師器	坏	―, ―, 8.0	砂粒を含む	橙色 明褐色	外面－底部回転糸切り後ヘラ削り 十文字刻み目 底部破片
27	土師器	坏	5.4, 13.5, 8.0	赤色粒子を含む	橙色 明褐色	内面－剥離により暗文不鮮明 破片
28	土師器	坏	―, ―, ―	金雲母、赤色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	内面－暗文 底部ヘラ削り 体部～底部破片
29	土師器	坏	―, ―, ―	赤・白色粒子を含む	橙色 明褐色	内面－放射状暗文 破片
30	土師器	坏	5.0, 12.0, 6.6	金雲母を含む	橙色 褐色	内面－暗文あり 外面－体部下半ヘラ削り 破片
31	土師器	甕	―, ―, ―	砂粒を含む	明黄褐色 暗褐色	内面－横刷毛目、籾痕か？ 外面－縦刷毛目 破片
32	土師器	甕	―, ―, 9.2	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	底部木葉痕 破片
33	土師器	甕	―, 29.0, ―	赤・白・黒色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目 口縁部破片
34	弥生	壺	―, ―, ―	砂粒を含む	にぶい黄橙色 淡黄色	外面－櫛描きU字文 破片
35	土師器	内耳土器	―, 26.4, ―	細かい雲母を多量に含む	黒褐色	内面－横撫で 外面－圧痕 口縁部破片

Ⅵ まとめ

今回の調査では、前項で見たように弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世という時代的にかなり幅をもった時期の遺物が出土した。遺構は僅かに溝状遺構のみであり、その性格は不明と言わざるを得ないが、当該地域に人間の活動の場が及んでいたことは明らかであろう。周辺地域に当時の遺跡の存在が推定される。狭い調査面積にもかかわらず遺構・遺物が確認されたことは、地域の歴史を考究するうえで重要な発見であったと言えよう。

最後に本発掘調査の実施にあたり、地権者である保阪宏悟氏の御理解と御協力に、衷心より感謝を表し御礼を申し上げる次第である。

写　真　図　版



排土作業

北側区画発掘風景

北側区画

北側区画東辺土層

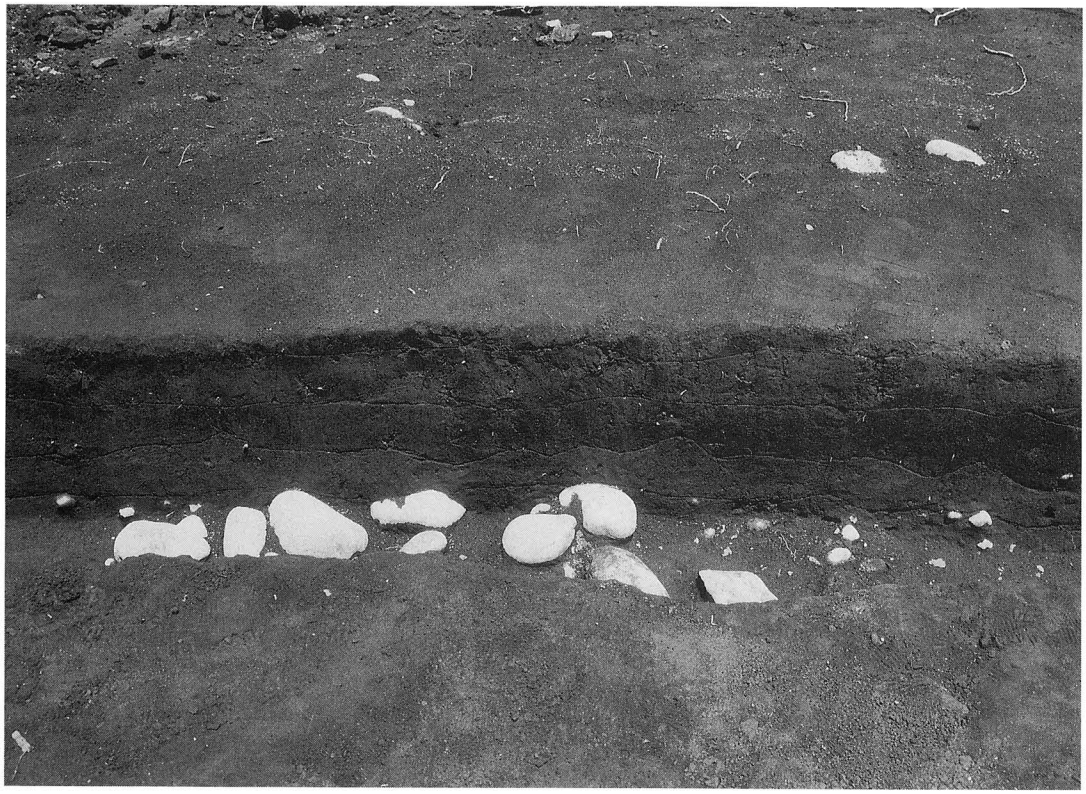
図版 3

溝状遺構

北側区画補助的試掘溝西端土層

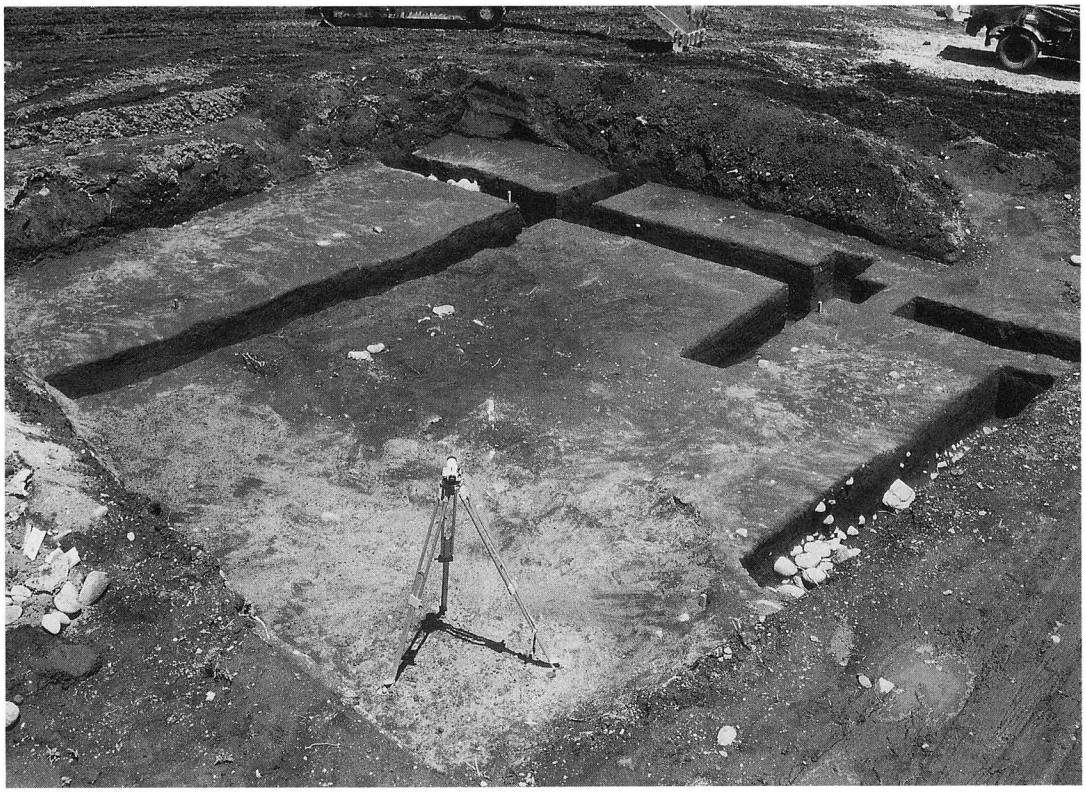
溝状遺構土層

南側区画発掘風景



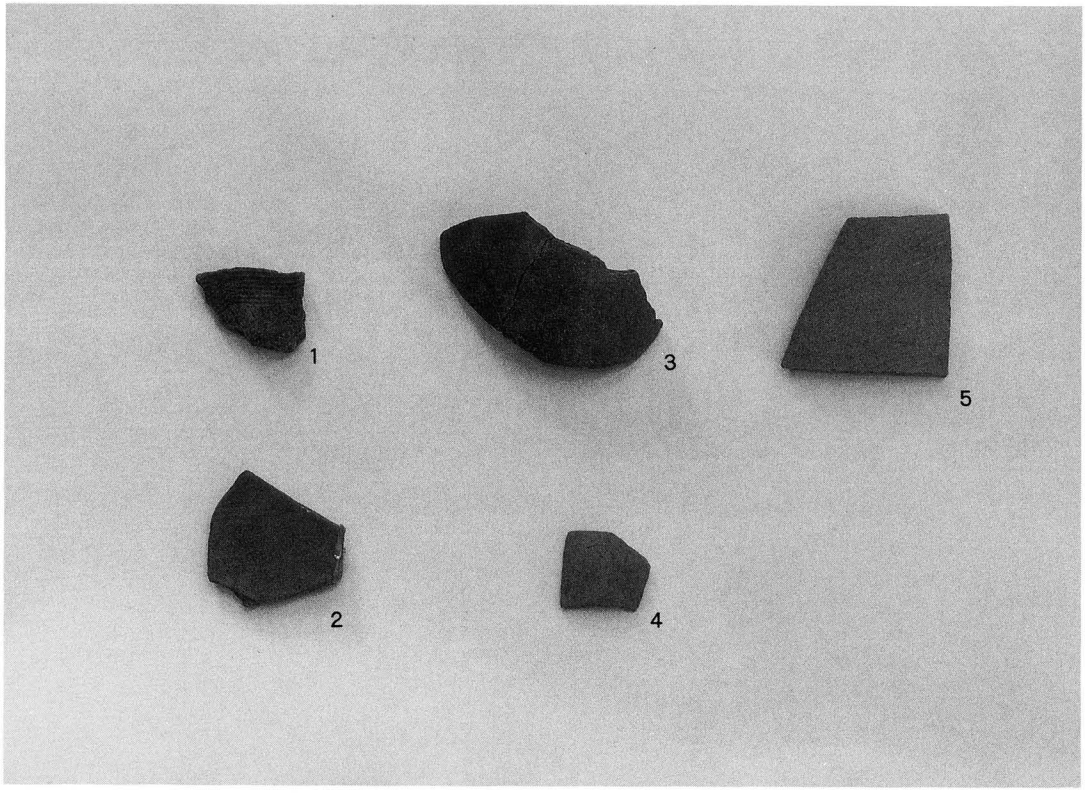
南側区画補助的試掘溝土層

南側区画補助的試掘溝東端土層

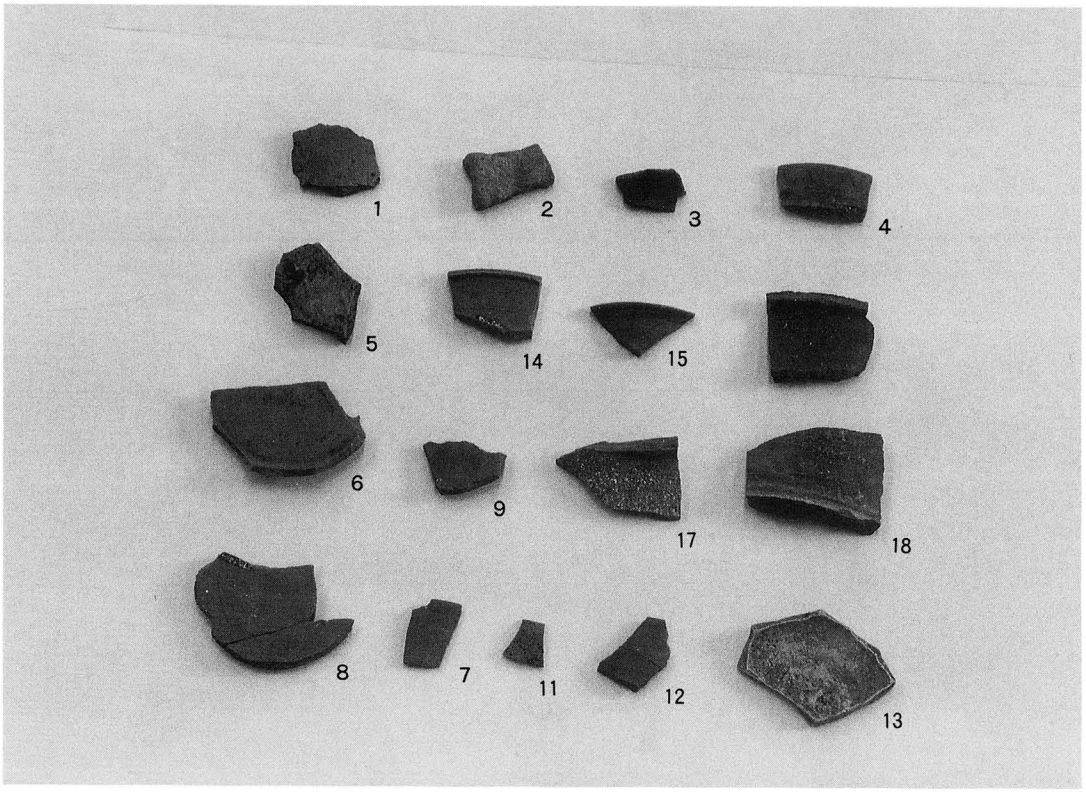


南側区画

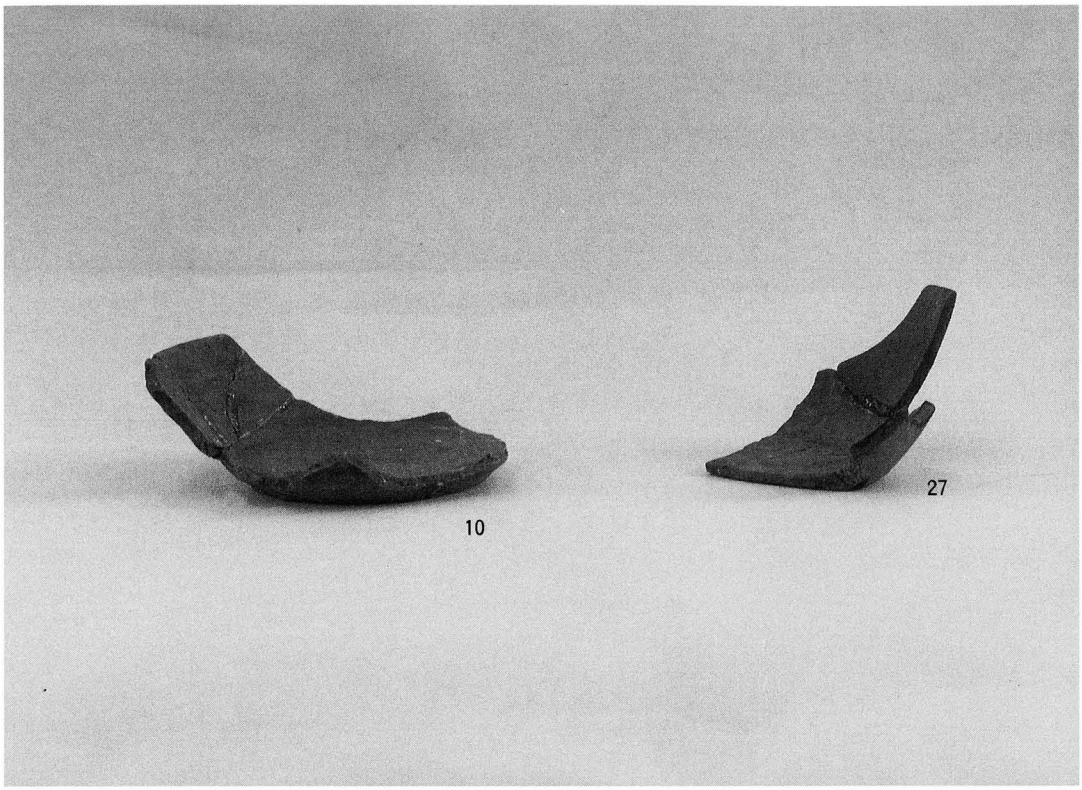
測量風景



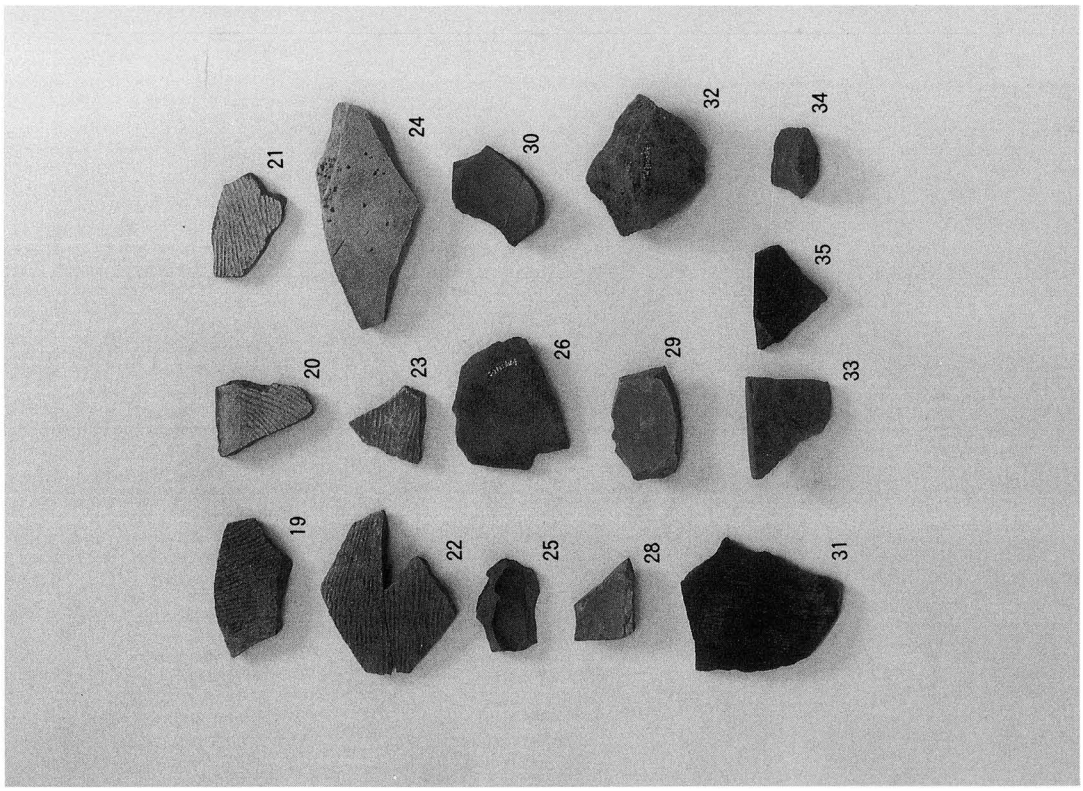
溝状遺構出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物

宮ノ前第4遺跡

1995年　3月31日発行

韮崎市遺跡調査会
韮崎市教育委員会
〒407　山梨県韮崎市水神一丁目3－1
ＴＥＬ　0551－22－1111(代)

印刷　有限会社　タクト/印刷・デザイン